

# 今日もいいお天気ですね

- 向こう側でこちらを眺めている人 -

平岡 真生

2024年7月20日上演台本

「向こう側でこちらを眺めている人」・登場人物表

平岡（56）

一家の嫁。

岡田（48）

隣家の奥さん。

平岡真生「今日もいいお天気ですね」

## 「向こう側でこちらを眺めている人」・あらすじ

私はこの街を4年ほど離れていたがまた戻ってきてここに住んでいる。久しぶりに帰ると新しい家がたくさん建っていてどの景色も同じにしか見えなかった。鳥たちのさえずりや子供の笑い声が聞こえて、大人になった私には眩しかった。けど変わらず自宅の隣の家はそのまま安心した。隣人は見た目がわたしと似ていて馴染みのある言葉を話している。まるで生き別れた兄弟のように近くに感じていた。隣人はもうすぐこの家を出ていくらしい。どうやら変わらないと思っていたが私の記憶の中の隣人ではなくなっていた。多分隣人は出口が見つかって一歩先に出て行った。私はまだここにいる。隣人が家に招待してくれた。2000年代の日本を思わせるモノや雰囲気広がっていた。その部屋に久しぶりに行くと私の記憶の中にあつたものや家具は無い。過去の記憶の中の世界に戻れたみたいで懐かしい気持ちになったが何か違う。そういえばブロック塀って私のものだと思っていたブロック塀が自宅と隣家の敷地の中心に建てられている。そういえばブロック塀って私の所有物だと思っていたけど両家のものらしい。家に帰るとこの辺りで母と隣家の奥さんが2人で世間話しをしている声が聞こえていた。

平岡（56）と岡田（48）が向かい合って立つ。  
コンクリートブロック塀に向かって平岡と岡田が両端から歩いてくる足音。

マイクスタンドの前で会釈をする。

平岡 「今日もいいお天気ですね。こういう日は散歩に出かけるのが気持ちいいですよ。」

岡田 「本当ですね。最近、天気の良い日が続いているので、外で過ごす時間が増えました。こういう天気が続くと、自然とアウトドアの活動がしたくなりますね。」

平岡 「そうですね。夏が近づいてくると、公園やビーチが賑わい始めますよね。何か夏の予定は立てていますか？」

岡田 「まだ具体的には決めていないんですが、家族でバーベキューをしたり、近場の海に行ったりしたいなと思っています。子供たちも楽しみにしているので、計画を早く立てないとですね。平岡さんはどうですか？」

平岡 「私も似たような感じです。友達とキャンプに行く計画を立てているんです。自然の中で過ごすのってリフレッシュできますし、子供たちも喜ぶので、楽しみにしています。」

岡田 「それはいいですね！キャンプは最近人気がありますよね。自然の中でのんびりするのには確かにリフレッシュになります。どこに行く予定なんですか？」

平岡 「まだ具体的な場所は決めていないんですが、近くの山や湖が候補に上がっています。岡田さんも一緒に行けたら楽しいかもですね。」

岡田 「それは楽しそうですね！ぜひ誘ってください。みんなで自然の中で過ごすのは素敵な思い出になりそうです。自然の中での共同体験は、家族や友達との絆を深める良い機会になりますよね。」

平岡 「そうですね。お天気がいい日が続くと、こういう楽しい計画を立てやすくいいですね。ちなみに、天気が良いといえば、最近隣家のニュースを見ましたか？」

岡田 「はい、少し見ました。隣家は文化や歴史が豊かで、観光地もたくさんありますよね。特に最近のニュースでは、あの地域の歴史的な建物や自然保護の取り組みが取り上げられていました。」

平岡 「そうなんですよね。特に、昔からの伝統と現代の融合が面白いですし、観光地としても魅力的です。実は、自宅と隣家は見た目も似ていて、使っている言葉にも馴染みがあるから、お互いの文化には親しみやすいところがありますよね。」

岡田 「そうですね。文化的な共通点が多いので、自然と親しみを感じやすいんでしょうね。例えば、昔はうちの息子と平岡さん家の娘さんと一緒にたんぼぼやいろんな植物で遊んでいましたよね。最近は花を見かけることが少なくなりましたけど。」

平岡 「そうなんです。あのブロック塀の穴に咲いていたたんぼぼ、綺麗でしたよね。確か、キク科ヤナギタンポポという種類でしたね。今は絶滅の危険性が高くなっているらしいですよ。」

岡田 「そうそう。あのたんぼぼは本当に美しかったですね。最近では見かけることが少なくなってきたというのは残念です。そういえば、最近ブロック塀の穴にたんぼぼが咲いているのを見た気がしたんですけど、気のせいでしょうか？」

平岡真生「今日もいいお天気ですね」

平岡 「気のせいではないかもしれませんがね。あの場所は自然が豊かで、いろいろな植物が生息しているので、たんぽぽが復活している可能性もありますよ。ブロック塀の穴の中は、人が住んでいないので、まるで本来の世界の姿を見ているかのようです。」

岡田 「まさにその通りですね。ブロック塀の穴のような場所では、自然の力が強くて、忘れ去られたかつての景観が残っている感じがします。あの場所が世界の本来の姿かもしれないというのは、非常に興味深い考え方です。」

平岡 「確かに。あの自然の美しさには驚かされますし、過去の出来事を肌で感じるような気がします。そういえば、人と自然が共存できるのか、という問題についても考えさせられますね。」

岡田 「そうですね。人間中心の社会を省みて、もっと自然に戻ることができるのかどうか、というのは難しい問題です。例えば、私たちが日常的に使っているエネルギーや資源も、もっと自然と調和した方法で利用できないか考えるべきかもしれません。」

平岡 「逆に、人間中心主義ではなく、自然や動物、生物が主体となる世界はどうなるのでしょうか。もしそれが可能であれば、どのような世界になるのでしょうか。」

岡田 「確かに興味深いですね。自然や動物が主体の世界では、人間がもっと自然と調和して生きる必要がありますよね。都市開発も環境に配慮したものになり、公共交通機関やエネルギーも持続可能なものになっていくでしょう。また、農業や食物の生産も、自然のサイクルに合わせた方法になっていくでしょう。」

平岡 「そうですね。人間の利益だけを追求するのではなく、すべての生物が共存できる環境を作ることが大切です。もしかしたら、それが本来の世界の姿なのかもしれません。」

平岡真生「今日もいいお天気ですね」

ん。私たちが今直面している環境問題も、その考え方から解決の糸口を見つけられるかもしれません。」

岡田

「そう考えると、今の生活スタイルを見直す必要があるかもしれませんね。小さなことからでも取り組むことが大切だと思います。例えば、リサイクルを心がけたり、エネルギーを節約したりすることで、少しずつでも変化を起こしていけると思います。」

平岡

「本当にそうですね。歴史を学び、未来に向けて自然と共存することが大切だと改めて感じます。お天気の話からここまで深い話ができるなんて、なんだか不思議ですね。」

岡田

「そうですね。でも、実は話さないといけないことがあるんです。」

平岡

「どうしたんですか？」

岡田

「実は、もうすぐこの家を出ていくことになりました。離婚することになって、他に新しい家を建てたんです。」

平岡

「そうだったんですか。それは大変ですね。新しい家はどんなところですか？」

岡田

「新しい家は、ブロック塀の穴の中のように自然が豊かな場所なんです。今の世界とは違う感じで、自然が主体となるような環境なんですよ。動植物がたくさんいて、まるで別の世界にいるような気分になります。それに、キク科ヤナギタンポポもたくさん咲いているんです。」

平岡

「それは素晴らしいですね。自然と共に生活するのは、確かに理想的です。新しい環境での生活がうまくいくことを願っています。」

岡田

「ありがとうございます。新しい家での生活が楽しみですし、自然と共存するということを実感しながら暮らし

平岡真生「今日もいいお天気ですね」

ていきたいと思っています。今の世界とはまた違った良さを感ぜられると思うので、期待しています。」

平岡

「応援しています。新しいスタートが素晴らしいものになりますように。」

岡田

「本当にありがとう。そろそろご飯を作る時間なので家に戻りますね。また明日。」

平岡

「また明日。」

平岡と岡田がコンクリートブロック塀からそれぞれの自宅に向かって去る足音。

(終わり)